

移 動 支 援

事業名称

「乗ってみらんとわからんね！」
試乗会を通じた既存の地域資源の利用促進と住民主体の活動へ

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 生活支援 | <input type="checkbox"/> 見守り |
| <input type="checkbox"/> 買物支援 | <input type="checkbox"/> 居場所作り |
| <input checked="" type="checkbox"/> 移動支援 | <input checked="" type="checkbox"/> 協議体 |

市町村名：八代市
部署名：八代市社会福祉協議会
連絡先：0965-62-8228

地域の概要

昭和校区は平野部で地域に店や医療機関がなく、農業地帯のため、3世代同居世帯が多い特徴がある。

また外国人技能実習生も多く、高齢化率は20%代になっている。

人口：1,224人 世帯数：631 高齢化率：29.8%（R7.11月末時点）

取組みの背景

昭和校区では、地域に店や医療機関がなく、市内中心部へ移動する際にはタクシーの利用や、家族による送迎に頼らざるを得ないという声が多く聞かれていた。

こうした状況を踏まえ、地域での移動手段として既存の地域資源である予約制乗合タクシーの利用を推進し、鏡地域で実施した試乗会について生活支援コーディネーター通信を通して、昭和校区においても随時周知した。その結果、地域のキーパーソンから「まずは乗ってみらんとわからんね」という意見があがり、予約制乗合タクシー産島線の試乗会実施につながった。

参加者の声「実際に利用したことで周りにも伝えやすくなった」「家族に送迎を頼むのは遠慮してしまう」「自分のペースで外出できるのがよい」



実施までの流れ

地域の集まりで地域課題をキャッチ

- 地域の集まる場で情報提供（乗合タクシーについて説明・SC通信にて他校区の取組みの情報）
- キーパーソンの発掘
- 校区福祉会へ情報提供・試乗会の提案
- 地域住民への説明会
- 試乗会実施
- 住民主体による報告会の開催

取組みの概要

予約制乗合タクシーを実際に利用し、地域住民へのスムーズな情報提供と活用促進をするために、路線バスと組み合わせた試乗会を実施。試乗会にかかる運賃は、乗合タクシーの必要性を理解した校区福祉会の補助により、参加者の負担なしで実施している。

<予想される効果>

①外出機会の確保 ②交流のきっかけ ③移動手段の課題解消

【啓発活動】

- ・地域資源の情報提供を地域の集まりや会議にて説明
- ・公共交通と組み合わせた「試乗会」実施（行政との意見交換会含む）
（民生委員ふれあい委員有志/サロン）実施回数/6回 参加人数/合計44名

<試乗会実施行程パターン>

①停留所～八代市役所で意見交換会～路線バスでゆめタウンへ行き食事・買い物

【試乗会実施回数2回】

②事前説明・意見交換会（市担当課/SC）→停留所～八代市役所前で路線バスに乗り継ぎ、ゆめタウンへ行き食事・買い物【試乗会実施回数2回】

③停留所～八代市役所～日奈久温泉

【試乗会実施回数2回】



生活支援コーディネーターの役割

<地域に向いて課題の把握>

<地域のキーパーソンの発掘>

→乗合タクシーについてのSC通信パネル展示を熱心に見ていた民生委員へ声掛け。

思い立ったらすぐ行動！の気持ちから、乗合タクシーを地域住民が気軽に利用できるよう地域へ発信されている協力者。

<既存の地域資源の把握>→ルートや公共交通までの乗り継ぎなど

<会議での提案>→利用促進のため試乗会の実施を提案

<乗り継ぎの体験や次につながるような楽しい内容の企画>

<住民との連絡調整>→代表者と打ち合わせをし、住民の要望を取り入れた内容を検討

<関係機関（市担当課）との連携>→ルート確認の相談、住民との意見交換会の実施

※ 試乗会の際には市担当課との意見交換会も取り入れ、地域住民へ乗合タクシーのことを知ってもらい、市担当課へは地域の生の声を届ける機会となっている。

<試乗会への同行・コーディネート・SC通信での発信>

今後に向けて

・家族に免許返納を勧められて返納された方は、日常生活に制限が掛かり不便さを感じていたため、乗合タクシーに興味を持たれた。

・「みんなで温泉に行ってみよう」という声から、路線バスと組み合わせた試乗会を実施し、自分たちで外出計画を立てるという住民主体の試乗会に発展した。

・実際に参加した住民が、いきいきサロンや地域の集まりで体験を報告したことで、取り組みがさらに地域へ広がった。

・参加を機に、人とのつながりの大切さを実感し、休止していたいきいきサロンの再開につながった。

上記のことから、試乗会への参加や参加者からの口コミを通してさらなる利用促進へとつながる効果があった。今後も住民の移動への不安が和らぐとともに、外出への前向きな気持ちの変化を大切にしながら、住民が安心して外出できる地域づくりを支えていきたい。

事業名称

地域の声を形にした乗合タクシー継続のための取り組み

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 生活支援 | <input type="checkbox"/> 見守り |
| <input type="checkbox"/> 買物支援 | <input type="checkbox"/> 居場所作り |
| <input checked="" type="checkbox"/> 移動支援 | <input type="checkbox"/> 協議体 |

市町村名：八代市
部署名：八代市社会福祉協議会
連絡先：0965-62-8228

地域の概要

鏡町は平成17年に1市2町3村で合併をした1つ。
人口：13,751人、高齢化率：35.9%(R7.11末時点)の平野部。
面積が広く、町の中心部には生活に必要な機能が集中している一方、離れた地域では店や公共交通機関等が整っておらず、生活環境に差が生じている。
また、町の中心部までの移動手段が限られているため、住民にとってアクセス面が課題となっている。



実証実験試乗会の様子

取組みの背景

「免許返納後の移動手段」をテーマに福祉座談会を開催。そのなかで野崎地区は、店や病院がなく、町中心部へ行くにも最寄りのバス停まで遠く免許返納できない状況があった。区長からの「地域で移動支援について検討できないか？」をきっかけに、小地域からスタートした移動支援の取組み。その後、校区全体の仕組みへと展開された。

当初は、公助に依存する姿勢が強かったものの、継続した地域へのアウトリーチとコミュニケーションを通じて、地域住民が“我がこと”と捉え始め、主体的に関わる意識へと変化した。

実施までの流れ

- 1 校区福祉会主催による福祉座談会
- 2 区長より移動支援の相談
- 3 区長と野崎地区の移動支援について検討
- 4 地域住民（野崎地区）への説明・アンケート実施（区長・SC）
- 5 SCと区長で中心部（病院等）までの距離、所要時間を調査
- 6 行政と地域住民での検討会議（公共交通マップをもとに運行範囲・送迎ルート・停留所等を検討）
- 7 鏡町全戸へアンケート実施（行政）
- 8 公共交通会議にて承認
- 9 鏡地域予約制乗合タクシー新設
- 10 1周年を記念して乗合タクシーの愛称を公募し『どんかっちょ^{※1}』に決定

※1）ハゼ科の淡水魚「鈍甲（どんこ）」の方言

取組みの概要

- 福祉座談会→野崎区長より相談（野崎から鏡町中心部までの移送支援をしたい）
- 鏡町中心部までの調査（公共施設・店・病院までの時間・距離・最寄りのバス停）
- 地域住民へ説明「移動支援の取組みについて」
- 住民アンケート実施・集計報告（区長/SC）
- 鏡地区循環バス運行について打ち合わせ会
（野崎区長/まち協/循環バス委員会/関係区長/SC）
- 住民向けアンケート実施（行政）※対象者：鏡町の中心部以外の世帯
- 関係者会議（10回程度）※SCは野崎区長より情報共有
- 令和2年10月1日より鏡地域予約制乗合タクシー新設（文政線・鏡線・有佐線）
- 利用促進と継続へ向けた啓発活動
- 地域住民と行政、関係機関との連携
- 行政による「まちづくりと連携した持続可能なサービスについての実証実験」に参画し、各路線の試乗会のコーディネート

☆利用状況【3地区合計（R2年度20.51%→R6年度44.81%）】

文政線（R2年度36.54%→R6年度48.85% 増加率12.31%）＜試乗会実施2回＞

鏡線（R2年度7.69%→R6年度63.79% 増加率56.1%）＜試乗会実施5回＞

有佐線（R2年度17.31%→R6年度21.80% 増加率4.49%）＜試乗会実施4回＞

生活支援コーディネーターの役割

【周知・啓発活動】校区福祉会・行政・社協

- ・校区福祉会へ乗合タクシーの愛称募集の提案→公募実施、地域住民への周知→地域住民の寄り合いの場で結果報告
- ・毎年、カレンダーを作成し配布（町全戸・関係機関25箇所へ）
→各路線運行日や時刻表、試乗会の案内等記載
- ・地域資源の情報提供や地域の集まり等で「どんかっちょ」についての周知・説明を行う。
- ・地域資源（スーパー・学校）と組み合わせた「試乗会」を実施（行政との意見交換会含む）

参加者：民生委員有志/サロン/老人会 実施

回数/11回 参加人数/合計70名



集まりの場所（倉庫）で説明

今後に向けて

●地域住民へサービスの利便性や利用方法を繰り返し周知

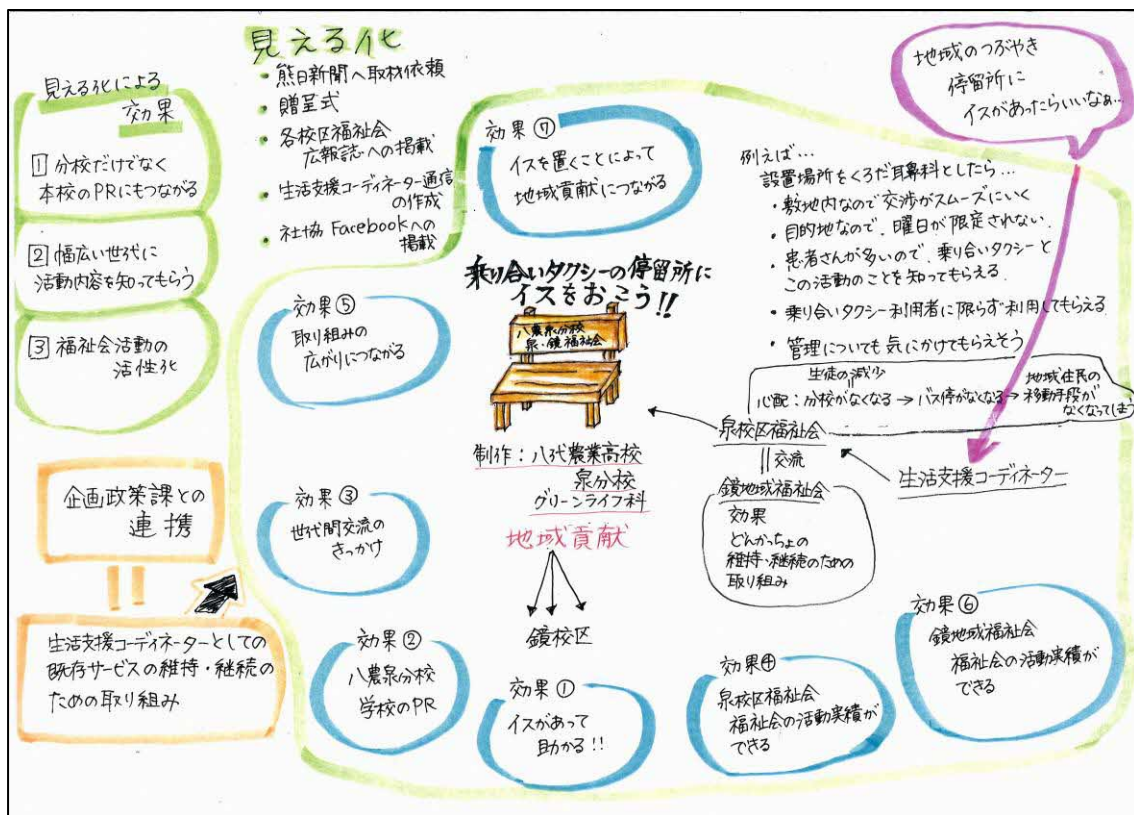
- ・今は必要でなくても、5年後10年後にあると助かる仕組みである。
- ・実際に利用して助かっている方もいる。
- ・外出をあきらめている方にも、乗合タクシーは通院・買い物・免許返納後の移動不安を解消する有効な移動手段である。

●試乗会実施（第1層SCとともに検討）

- ・地域資源（スーパー・学校）と連携し、買い物やレクリエーションを楽しみながら体験
- ・実際に利用してもらうことで、予約が難しいといった先入観をなくしていきたい
- ・サービスへの理解と利用意欲の向上につなげた。

●「停留所に椅子があったらいいな」という声があったため調査を実施

- ・全停留所（目的地11カ所、各停留所63箇所）について腰掛ける場所の有無や屋根の有無を確認。→地元の高校生ベンチの製作を依頼し、2箇所設置。



事業名称

住みよか岱明を作ろう会 ～乗り合いタクシー試乗会～

- 生活支援
 買物支援
 移動支援

- 見守り
 居場所作り
 協議体

市町村名： 玉名市
部署名： 高齢介護課
連絡先： 0968-75-1339

地域の概要

(1) 概要（令和7年11月末）

岱明町人口：12,890人（男性6,226人、女性6,664人）
（玉名市人口61,718人（男性29,832人、女性31,886人））
高齢化率：37.37%（玉名市高齢化率36.09%）
要介護（要支援）認定率：19.05%（玉名市全体）

(2) 岱明町の特性

- ・熊本県の北西部に位置し、南に有明海、北に小岱山を望む豊かな地域。
- ・海苔の養殖や農業が盛んで、生活と自然が密接に結びついている。

(3) 地域資源情報

- ・路線バスの廃止に伴い、玉名市の乗り合いタクシーの運行エリアになっている。
- ・個人病院は7か所あるが、歯科と内科のみ
- ・スーパーやコンビニが点在しており、また、一部地域では移動販売の実施あり。

取組みの背景

令和5年から令和6年10月まで、協議体について知ってもらうことや地域の魅力再発見、地域課題の抽出について、計6回話し合いを重ねてきた。その中で、地域資源が十分に認知されていないことや担い手不足、免許返納後の移動手段に関する課題が出てきたが、既存の地域活動で精一杯であり、新たな活動を始めることは困難であるとわかった。

課題の中から、ケアマネジャーとしても働く2SCとして、移動支援に関する課題が優先であると判断。協議体の中で、路線バスや乗り合いタクシーに関する情報を共有した。

協議体参加者は、乗り合いタクシーのことは知っていたが、乗ったことがないことで抵抗感が強く、また、自家用車での移動が前提である地域であるため、将来免許返納後の暮らしをイメージできない様子だった。

そこで、将来免許返納したあとも自分が行きたいところに行けるよう、運転する年齢のうちから準備しておく必要があると考え、民生委員とともに乗り合いタクシーの試乗会を開催することとした。

実施までの流れ

令和7年1月：乗り合いタクシーの説明会を実施＋乗り合いタクシーの利用登録の促進
⇒ 玉名市地域振興課（公共交通担当課）職員からの説明とその場で利用申請書の記入支援を行った。

令和7年4月：民生委員と乗り合いタクシーの試乗会に関して話し合いを始める
⇒ 4小学校区に分かれて行き先や日時、ルートを決めた。

令和7年7月～10月：乗合タクシー試乗会及び試乗後の意見交換会を実施

取組みの概要

(1) 参加メンバー 民生委員 23 人

(2) 乗合タクシー試乗会・意見交換会

・岱明町は4つの小学校区に分かれているため、試乗会及び意見交換会も4小学校区に分かれて実施

日程	参加者	行き先（目的）	意見交換会日
7月30日・31日	睦合小学校区民生委員 6人	くまもと県北病院 （通院）	8月5日
9月18日	鍋小学校区民生委員 4人	玉名市市民図書館、 千龍ラーメン（展示 会見学、食事）	10月2日
10月22日	大野小学校区民生委員 6人	玉名市役所、 玉名市歴史博物館こ ころピア（特別展見 学）	10月27日
10月23日	高道小学校区民生委員 7人	ゆめマート玉名（買 い物）	10月29日

(3) 乗り合いタクシーの予約

参加者が各自で電話予約をおこなった。

(4) 大事にした点

車やバス、電車に乗るときは、ただ乗るのではなく行き先や目的があって乗ることがほとんどであると考え、その旨を伝えたくて、まずは参加者と行き先（目的）を決めて、その後に実施日やルートを決めることにした。



生活支援コーディネーターの役割

(1) 協議体として話し合いを進める中で、さまざまな意見や地域課題が出てきた。その意見や地域課題を抽出し、着手する地域課題やその課題への取組み方法の提案を協議体参加者に納得感を持ってもらうためにゆっくりと着実に進めた。

(2) 試乗会を実施するうえで、2SCだけでは難しいと感じたことは玉名市地域振興課や社会福祉協議会に協力を得て準備を行った。

① 玉名市地域振興課との役割分担

公共交通担当部署の地域振興課職員に試乗会の目的を伝えたくて、乗り合いタクシーに関する説明や、乗り合いタクシー運行会社への事前連絡や予約が少ない時間帯の情報提供をしていただいた。運行ルートやバスへの乗り継ぎについても細かく教えていただき、行き先での所要時間も十分確保できた。

また、試乗会後の意見交換会にも参加してもらい、参加者の疑問にもその場で答えていただいたり、今後地域の介護予防活動での乗り合いタクシー説明会の日程を決めていただいたりなど対応していただいた。そのおかげで、参加者の疑問もすぐ解決し、参加者自身も地域で紹介したいとの前向きな意見も多く出た。

生活支援コーディネーターの役割（つづき）

② 玉名市社会福祉協議会との役割分担

当初、民生委員自身が乗り合いタクシーに関して懐疑的だったこともあり、試乗会に関して前向きではない方もいた。しかし、日頃から民生委員との関わりが強い社会福祉協議会が間に入ってくれたため、試乗会を実施することができた。

(3) 試乗会に向けた民生委員との話し合い

協議体立ち上げ当初からともに活動をしている民生委員と、小学校区別で行き先や日時を調整した。ただ乗るのではなく、乗るときは行き先や目的があることを2SCから先にお伝えしたうえで、地域の人がよく行く場所や、あえてなかなか行かない場所等意見を出し合いながら行き先に決めた。

(4) 試乗会当日の動き

乗り合いタクシーが参加民生委員自宅前若しくは自宅付近に迎えに行くことから、タクシーに随行し乗降様子を動画や写真に収めた。

今後に向けて

乗り合いタクシー試乗会実施前には「使いにくいのではないか」といった懸念の声が聞かれた。

しかし、実際に試乗を体験していただくと、参加者の皆様からは多くのポジティブな感想が寄せられた。「予約も難しくなく、地域で移動に困っている高齢者がいたら紹介したい」という声や、「久しぶりに路線バスに乗れて楽しかった」「博物館が面白かった」「ラーメンが美味しかった」など、移動そのものや外出先での体験に対する声が相次いだ。



今回の乗り合いタクシー試乗会は、こうしたネガティブな先入観を払拭し、「使い方を理解すれば便利な移動手段である」「運転免許返納後も、乗り合いタクシーや路線バスを活用して安心して自立した生活を送れる」というポジティブなイメージを持ってもらうことを意図して実施した。これは、コーディネーターとしてだけではなく、ケアマネジャーとして地域資源を最大限に活用し、住民の方々が自立した生活を送れるよう支援する上でも重要な取り組みであった。

自家用車以外の多様な移動手段の選択肢が地域に浸透していくことは、岱明町をより住みやすい地域へと発展させる上で不可欠であると考えます。地域づくりや支え合いを考えると、「新しい仕組みや施設を創ること」と思われがちである。しかし、すでに存在する地域資源を改めて見つめ直し、それらを活用しながら住民が共通の体験を積み重ねることも、地域づくりや支え合いを深める重要な一歩となる。そして、その過程においては、高齢者の方々だけでなく、岱明町に関わる全ての人々との情報共有や対話が不可欠である。

今後も、既存の地域資源をいかに有効活用できるかという視点を持ち、多様な関係機関との連携を深めながら、「住みよか岱明」の実現に向けて尽力していきたい。

事業名称

高齢者の安心な移動環境の確保及び健康増進を目的とした温泉送迎バス運行事業

- 生活支援
- 買物支援
- 移動支援

- 見守り
- 居場所作り
- 協議体

市町村名：天草市

部署名：天草西地域包括支援センターさざんか

連絡先：0969-76-1611

地域の概要

天草町は総人口 2,480 人のうち、高齢者が 1,371 人を占め、高齢化率 55.3%と市内でも高い地域である。基幹産業は一次産業であるが、後継者不足により人口減少と過疎化が進行している。

また、公共交通機関は人口減少に伴い縮小しており、高齢者を中心に移動手段が限られていることから、日常生活に支障をきたす状況が生じている。



取組みの背景

近年、天草町においては公共交通機関の減少や自家用車の運転継続が難しくなる高齢者が増え、外出機会の低下や買い物困難といった生活課題が顕在化していた。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、通いの場や地域サロンへの参加者が大幅に減少し、住民同士の交流機会が縮小した。

これらの課題を踏まえ、高齢者の外出機会の創出、買い物支援、温泉入浴による健康増進を図り、社会参加につなげるため、下田温泉センター白鷺館が保有する送迎バスの活用を検討した。

実施までの流れ

(1) 地域の実情調査

生活支援コーディネーターが地域の移動手段の実態を把握し、白鷺館に対して送迎バス運行を提案した。

(2) 協議体での検討

送迎バスの必要性・実現可能性、地域商店との連携による買い物支援の効果などについて協議を実施した。

(3) 住民意向の把握

高浜・大江地区を運行対象とし、通いの場においてアンケート調査を行い、利用意向・希望時間帯等を確認した。

(4) 運行計画の策定

アンケート結果を基に、運行月・運行日程、バス代込みの入浴料金等を検討し、停留所等の具体的な運行計画を策定した。

(5) 食支援との連携

温泉センター内の「うみねこ食堂」と協議し、館内での食事提供に加え、昼食・夕食用弁当及び惣菜の提供が可能か調整を行った。

(6) 初回運行及び周知

初回運行日を 10 月 6 日とし、ポスター掲示やチラシ配布等により周知を実施した。

取組みの概要

本取組みは、高齢者の外出機会の創出、買い物支援、温泉入浴による健康増進、社会参加促進を目的に、下田温泉センター白鷺館の送迎バスを活用して実施したものである。

通いの場参加者に限らず、地域住民が温泉を利用し、併せて周辺店舗で買い物を行うことで、移動支援と買い物支援の双方を実現することができた。



(バスの降車風景)



(バスの乗車風景)

生活支援コーディネーターの役割

- ・地域の移動手段に関する状況把握
- ・白鷺館への送迎バス運行提案
- ・運行計画に必要な情報（アンケート等）の収集
- ・バス停留所確保のための関係機関との調整
- ・住民及び関係団体への周知活動（ポスター・チラシ等）
- ・運行開始日の同行による利用状況確認及び課題抽出
- ・利用促進に向けた継続的な支援

今後に向けて

今回の取組みは、天草帳における高齢者の外出機械減少や買い物困難といった生活課題に対応するものとして三施した。

送迎バスを活用した外出支援、温泉入浴による健康増進、周辺商店での買い物支援は、高齢者の心身の健康維持に寄与するとともに、社会的孤立の予防にもつながる取組である。

今後は、本事業の成果を踏まえ、目的を明確にしながら継続的な支援体制の強化を図る。また、広報媒体の活用や関係機関との連携を深め、より多くの住民に事業の意義と効果を伝え、参加促進につなげていく。

事業名称

御所浦北診療所の送迎車の活用について

- 生活支援
- 買物支援
- 移動支援

- 見守り
- 居場所作り
- 協議体

市町村名：天草市

部署名：天草東地域包括支援センターあじさい
御所浦サブセンター

連絡先：0969-67-1777

地域の概要

横浦島は島内1周約5kmの小さい島。

3つの集落で成り立っている。

人口：483人。高齢化率59.8%。

以前は漁業がさかんだったが、後継者不足等により低迷している。また島内に公共交通機関がないため、移動が生活課題となっている。



取組みの背景

地域ケア会議の地域課題で横浦島は公共交通機関がなく移動が困難という課題が頻繁にあがってきていた。そこで振興会会長へ課題を伝え、地域課題について住民との意見交換会を開催した。

その後、振興会と協働で横浦島の高齢者世帯や認定者がいる世帯へ移動に関するアンケート調査を実施したところ6割を超える方が島内の移動手段が新しくできれば利用したいと答える結果となった。

実施までの流れ

以前から地区の話し合いのなかでも、移動に関する問題は出ており、移動車の設置要望を行政区長会から市へ問いかけたが発展しなかったため、自分たちでは解決できないと諦めていた。

今回この意見交換会をきっかけに再度移動について考える機会となったと、振興会会長や区長が主となり、市との協議を何度も繰り返された結果、令和5年2月より診療所の送迎車を横浦島島内の移動手段として活用できることとなった。

取組みの概要

- 運行日：毎週月・木曜 13:00～16:30
- 予約受付：平日8:30～17:15(乗車日の前日までに予約) * 月曜日利用の場合は前週金曜まで
- 予約方法：氏名・住所と①乗車場所②乗車希望時間③降車場所を伝える
- 利用料：無料
- 利用対象者：横浦島住民
- 乗降場所：①御所浦北診療所 ②御所浦北簡易郵便局 ③与一ヶ浦フェリーターミナル
④横浦港定期船乗り場 ⑤横浦島出張所（コミュニティセンター）

生活支援コーディネーターの役割

- 意見交換会の開催
- 横浦島住民へ移動に関する現状把握についてアンケート調査の実施と取りまとめ
- 関係機関との情報共有

今後に向けて

利用者のニーズと運行時間帯が合わないため、利用者数は少ない。移動手段として有効活用できるよう、住民のニーズを把握し関係機関へ働きかけを行っていきたい。

事業名称

移送事業ボランティア活動

- | | | |
|--|--------------------------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> 生活支援 | <input type="checkbox"/> 見守り | 市町村名：苓北町 |
| <input type="checkbox"/> 買物支援 | <input type="checkbox"/> 居場所作り | 部署名：苓北町地域包括支援センター |
| <input checked="" type="checkbox"/> 移動支援 | <input type="checkbox"/> 協議体 | 連絡先：0969-35-1289 |

地域の概要

(苓北町の概要) R7年3月末時点	(鶴サロン概要)
苓北町総人口 6,133人	鶴地区人口 125人
世帯数 2,988世帯	世帯数 51世帯
65歳以上人口 2,800人	65歳以上人口 59人
高齢化率 45.7%	高齢化率 47.2%
65歳以上独居高齢者 801世帯	65歳以上独居高齢者 8世帯
70歳以上高齢者世帯 371世帯	70歳以上高齢者世帯 6世帯
通いの場数 34か所	

鶴地区は苓北町の山間部に位置し、公共のバスも通っておらず、町内の無料定期バスも毎日通らない地区である。

サロン会場は地区の中心部にあるが、会場まで歩いていくのに坂道も多く、距離的に歩いていけない方もいる。



取組みの背景

鶴サロンは、平成30年地域住民からの要望で発足したサロンであり2回/月の活動。立ちあげ当初は、65歳未満の若い方も参加されていたが、日数がたつにつれ、参加者も10人前後と固定化した。

そのうち、半数の5人に送迎が必要で、送迎があれば参加したいとの要望もあり、巡回バスも検討したが、サロン実施日と巡回バスのルートや時間が合わなかったり、膝の痛みでバスのステップを上げられない参加者もあり、包括スタッフで送迎を実施していた。

他のサロンも同じような課題があり、モデル地区として、R3年から鶴地区の移送ボランティア事業を開始する。

実施までの流れ

住民アンケート実施

- 地域の移動手段を考える庁内連携会議
- モデル地区候補検討
- 移動ボランティアの確保
- 試行実施
- 他の地域へ展開

取組みの概要

- ・ 移送ボランティアは60～75歳代、女性4人男性1人
- ・ 利用希望者の自宅から会場まで送迎。
そのあとはサロン内での活動支援を行う。
- ・ 現在4カ所のサロンで展開。(図参照)

(令和6年度)

登録ボランティア	6人
移送利用登録者	16人
移送実績	37回

- ・ 保険はボランティア保険への加入(社協負担)
- ・ 基本公用車を使用するが、自家用車を利用する場合は誓約書を記入。ガソリン代を現物支給。



移送の様子

生活支援コーディネーターの役割

- ・ 調整…地域住民、老人会、行政等関係者間の意見やニーズを調整・連携。
- ・ 支援…車両や保険の手配について調査・調整。移送ボランティア人材の確保。
- ・ 企画…アンケート調査から見えた課題について地域の声を反映した企画の実施。
- ・ 伴走…移送事業の活動状況の把握、ボランティア、利用者双方の意見聞き取り。

今後に向けて

現在、4カ所のサロンで移送事業ボランティア活動を行っているが、高齢者の運転問題が懸念される中、移送ボランティアの確保が難しい状況である。

ボランティアは、サロンが行われている地域の住民にお願いしている。今後も、自らの介護予防につながるように、「つながり・支え合い」が継続的、自律的なものになればと思っている。